

観光防災で子どもたちとまちの未来をデザインする

ピンチをチャンスに変えるべく、津波災害特別警戒区域オレンジゾーンの指定を逆手にとって「海のまち 安全創出エリア」と名付け観光防災に取り組む伊豆市土肥地区。次世代を担う地区の子どもたちと一緒に地区防災計画の中で津波避難複合施設の建設を行っています。



地区の特徴は？

野毛さん：西側に駿河湾の海、三方を山で囲まれた風光明媚な観光地である伊豆市土肥地区。コロナ禍の前までは年間を通して100万人以上の観光客が訪れ、そのうち3分の1以上の方が宿泊する人気の温泉場です。南海トラフ地震では地震発生後短時間で10mの津波到達の想定。昨年は熱海で土砂



出典：「ほうさいこくたい」発表資料

災害が起きましたが、山地での水害と温泉町という産業を同じくする土肥地区としては、熱海の旅館の対応はとてもしっかりです。土肥の温泉地区には鉄筋コンクリートの頑丈な建物もあり、同様の災害では十分に住民を支えられる準備はできていると思います。地域住民の安全を担う準備ができればおのずと観光客の安全も守られるということで旅館協同組合は行政と一緒に地域防災に取り組んできました。

山口さん：土肥地区では人口の半分ほどが観光産業に関わっています。観光が元気であることは地域全体にとってとても大切だという考えのもと、これまで地域防災は行政と観光と一緒に考えてきました。

地区防災計画を策定したきっかけは？

山口さん：根本には土肥地区の人口減少、少子高齢化という課題が背景にあり、震災で地域がなくなるか、自然減でなくなるかという瀬戸際の状況。だからこそ、地域の安全を考えることで地域の活性も一緒に考えようという考えを重ねてきました。私も土肥が地元で、行政と観光の両方の立場がよくわかります。ただ、目指すものは同じだと考えています。



野毛さん：観光だけで防災に取り組むのではなく、市民一人ひとりが観光とコラボして自分自身を守るという意識が必要ですが、津波災害特別警戒区域オレンジゾーンの指定というのは、どう考えても観光には真逆の政策だと当初は思いました。ただでさえ自然減の状況なのに、風評被害的な要因になりかねない。安心して観光に来てくださいというのは行政的な発想。そこでピンチをチャンスに変えようと考え、これはそんなにピンチではないなと思うようになってきました。防災への取り組みをPRすることで観光のPRとしてもできると思います。

策定プロセスは？

野毛さん：行政が進めようとしていた推進計画と地区防災計画では、観光は行政に巻き込まれた立場。当初、観光と防災はどちらかを立てればどちらかが立たず、両立を考えるのは難しいと考えていましたが、山口さんの根気強い説明で徐々に巻き込まれていきました。しかし、オレンジゾーン指定は市長のジャッジ。指定の直前まで市長とは納得するまで相当な時間をかけて話し合いました。市長の思いだけでなく、具体的に何を行うかが見えてきたので、観光と行政の両輪で進める、という観光が行政を引っ張っていくことだと思えるようになりました。



山口さん：ももとは観光防災まちづくり推進計画のなかで区域指定について検討をしてきました。区域指定にいたるまでの間に多くの議論があり、観光と防災というこのまちの全てが上手く回るための計画をアドバイザーの助言も受けながら、地域として何に、どのように取り組めるのかを検討してきました。また、旅館組合としては何ができるのか目標をたてるよう助言を受け、「がんばる地域宣言」の設定につながりました。この宣言をもとに地区防災計画の策定に至っています。ここ2年はコロナ禍ではありましたが、「できることからやる」ということで、避難路の点検・清掃や避難訓練が実施されています。

アドバイザーの先生との関わりは？

山口さん：アドバイザーの加藤先生には観光防災まちづくり推進協議会の会長として最初からかわっていただいています。加藤先生は地域の実情をよく理解いただいているので、まずは観光が防災に取り組むことで地域全体に広げていき、住民の防災意識を高めていこうという方向で取組んでいます。それぞれの役割で、できることをやっていこうという視点。加藤先生には土肥を気に入っていただいて、地域の一員としてかわっていただいています。

野毛さん：加藤先生とは、いよいよ区域指定を受けるというタイミングで旅館協同組合の代表になって、それからの付き合いです。防災に詳しくない自分たちにもとても分かりやすく説明してくれて、自分たちの意見をよく聞いていただきました。

計画策定において工夫した点は？

野毛さん：観光として防災に取り組む疑問点は、徹底した対話を重ねてきました。まちの半分を担う観光産業の立場でまち全体の安全を考

えようと妥協を許さず話し合いを行ってきました。観光のまちだけだと防災も考える。自分たちで何ができるか、何がしたいか。相手の尊厳を守りつつお互いの意見を尊重することを大切に考えています。同じ志とする人を一人でも増やしていきたいと思っています。

山口さん：アドバイザーの助言もあり、できることから少しずつ検討を重ねるようにしています。推進計画には4つの大きな柱がありますが、そのうちの2つ（共生する、逃げる）を計画に盛り込み、一つひとつ地域の安全を考えるうえでできることから取り組み、その中で課題も見えてきて、先々を考えてボリュームアップをして、どんどん改善していけばよいということを進めました。他の地区と比べると非常にボリュームの少ない計画になっています。A3判で両面に収まる計画です。冷蔵庫や旅館のフロントにおけるようなサイズにしています。できることから取り組むことが大切だと思っています。

行政の町内会や住民への支援は？

山口さん：お互いの立場を理解し合えるようにしっかりと話をすることが必要。私も地域の地域の一員として、お互いの立場を理解したうえで、どのような方向にまちの未来を向けていくのか、議論を重ね、しっかりと共有をして、そこから何ができるのかをみんなで考えていく対話の場を作っていくこと。



野毛さん：「津波災害特別警戒区域」と聞くとこの地区は終わってしまうという印象を受けますが、住民に正しい理解を促すためにも、自分たちが主体的にかかわっているネーミングを全国に公募し、「海のまち 安全創出エリア」と名付けられた。正しく恐れる、というメッセージで住民としても前向きに受け取りやすいと思います。

山口さん：土肥地区は勾配が急で、高齢者の避難の手助けにとメーカーと協力して電動シニアカーを使った試乗実験を行いました。地域の高齢者には好評で、前向きな訓練だったと感じています。

計画の意義、効果は？

山口さん：多い時に5000人を越える人が集まる海水浴場では南海トラフ地震発生後の津波で多くの人が被災する想定で、隣接する松原公園内に津波避難複合施設の建設を検討してきました。その中で1000年に一度使うだけという津波避難タワーではなく、そのタワーを観光にも使える複合施設にすることで地域の活性化につなげていこうということになりました。現在、この公園の再整備を進めています。津波避難複合施設の活用については、中学生からも普段使いができる観光と商業の施設にしてほしいという意見が出るなど、住民がしっかりと自分たちの防災や地域の方向性を考えるための機会となっています。

野毛さん：観光と防災が両立するツールとして、津波対策に取り組むための「1丁目1番地」の取り組みであるので、伊豆市だけでなく県や国も巻き込んで取り組んでもらいたい。地区防災計画に取り組むことで、自分のまちに対する思いを1つにできたと思う。観光客に対して子どもたちも含め地域の人が積極的に挨拶をしたり道案内をし

計画作成後の活動は？

山口さん：区域指定の検討から、次世代の子どもたちである中学生にも毎年授業を行っている。子どもたちが地域の実情を把握して、津波リスクも把握したうえで、将来のまちに帰ってきたという地域にしていきたい。区域指定が、どうしたら悪いイメージだけではなく、前向きな指定ができるのかについて意見交換を行い、施設の活用についても、どんなものが必要なのかについて毎年中学生にも考えてもらっている。また、避難路の整備など具体的に進めなければならないことも多い。今後、県とも一緒に事前避難、事前復興的なものも検討を進めていきたい。



野毛さん：予測しやすい台風などの水害について旅館はシェルターになりえる。個室やお風呂など避難所として、また感染症対策としても生活環境がとても良い。要配慮者の避難先としても心地よく過ごしてもらえる。日頃から自分の身を守るための実践として旅館に避難して来てほしい。伊豆市との協定もある。

今後の課題は？

山口さん：今後、松原公園の津波避難複合施設の活用や他のハード対策など具体的に検討することがたくさんあり、次の事業として行っていく予定です。土肥地区から、高校、大学、社会人で地域を離れていく子どもたちが地元に戻った時に、かつて自分たちが検討していたものが実現したことを見せてあげたい。

防災意識は高まってはいるが、コロナ禍で思うように活動もできなかったところもある。改めてソフト対策を強化する必要があると思っている。

野毛さん：基幹産業を担うものとして地域に根付いてまちの安全も担っていますが、行政とのつながりでどうしても人事異動等により関係性を維持するのが難しくなる場合も想像できる。自分たちが息切れしないよう、また常に危機意識を維持してその時にきちんと対応できるように、活動を継続することを考えていきたい。

取材協力：	土肥温泉旅館協同組合
	代表理事 野毛 貴登さん
	伊豆市
	土肥支所長 山口 雄一さん
取材日：	2022年3月18日